

■山名氏清 武将。南朝勢力との戦闘で戦功を立てるも内紛となり、将軍義満により勢力を削減され、反抗するも討死。

やまなうじきよ

・ ・ ・ ・ ・ 1344 = 武将・守護大名で幕府引付頭人山名時氏の子に生まれる。

観応の擾乱終 1352 = 8歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1353 = 9歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1362 = 18歳 :

足利義満将軍 1368 = 24歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1371 = 27歳 : 父時氏が死去した際、弟時義が後を継いで惣領になったことから、以後、対立し続ける。

最初、丹波国守護職を得、

室町御所 1378 = 34歳 : \*細川頼元・山名義理・赤松義則らと紀伊国に南朝の橋本正督らを破り、和泉国守護職を付加され、摂津国の住吉・東生両郡もあわせて管轄する。

義満親政始 1379 = 35歳 : 橋本正督が拠る土丸城を山名義理とともに陥れ、

・ ・ ・ ・ ・ 1380 = 36歳 : 橋本正督と戦ってついに敗死させ、紀伊国の南朝勢力を攻めて生地城を陥れる。

義満全権掌握 1382 = 38歳 : 南朝方の楠木正儀を河内国平尾に破る。

・ ・ ・ ・ ・ 1385 = 41歳 : 山城国守護職を加えられ、

周信+良基没 1388 = 44歳 : 楠木正季が河内国に挙兵するとこれを攻めて破った。

高麗軍来寇 1389 = 45歳 : \*山名氏の惣領時義が死去すると、内部の対立が起った。時義の子息時熙と氏幸とに対し、将軍の側近にあった氏清および時氏の嫡子師義の子で山名氏の嫡統をみずから任ずる満幸との間であり、惣領権をめぐるの対立であった。義満はこの対立関係を利用して山名氏の勢力削減をはかり、

土岐氏の乱 1390 = 46歳 : 時義が生前武威を誇って上意に背くふりが多かったという理由で、氏清・満幸に命じて時熙・氏幸を討たせた。義満は、時熙・氏幸の分国但馬を氏清に、伯耆・隠岐を満幸に与えたが、氏清とその女婿満幸に専横なふるまいが多くなると、満幸が仙洞御領出雲国横田庄を押領したという理由で京都から追放し、一方、時熙・氏幸の罪を許した。このような状況のなかで満幸は、ひそかに氏清とはかり、将軍の大名勢力削減政策は山名一族を滅ぼすものとして謀反をすすめ、氏清もこれに応じた。

明徳の乱 1391 = 47歳 : \*氏清は和泉から、満幸は丹波から兵を率いて京都に迫り、幕府方の細川頼元・一色詮範・大内義弘らとの間で激しく戦ったが、幕府方の勝利に終り、満幸は逃亡し、氏清は内野で討死した<明徳の乱>。